

‘99JNC 原子力平和利用国際フォーラムー核燃料サイクルと核不拡散技術ー
について

平成 11 年 1 月 8 日

核燃料サイクル開発機構

1998 年 10 月、動力炉・核燃料開発事業団（PNC）は、核燃料サイクル開発機構（JNC）として再出発いたしました。新機構の使命は、核燃料サイクル技術の確立であり、特にプルトニウム利用技術の開発に当たっては、国際社会における核不拡散問題の現状に鑑み、JNC が取り組んでいる核不拡散に関連した技術開発や国際協力について国内外の理解を深めるとともに、世界各国の専門家を交えてこの問題に関する幅広い議論を行い、これを JNC の今後の活動に反映させていきたいと思っております。

このような目的から、JNC は、これまで「核不拡散国際フォーラム」として過去 3 回にわたって開催して参りましたフォーラムを「‘99JNC 原子力平和利用国際フォーラムー核燃料サイクルと核不拡散技術ー」として開催し、専門家の方々だけでなく、広く一般の皆様にもこれを公開し、この問題に対する理解を深めていただくための場所としたいと考えております。

記

1. 開催日：平成 11 年 2 月 22 日（月）、23 日（火）
2. 開催場所：灘尾ホール（千代田区霞ヶ関 3-3-2 新霞ヶ関ビル）
3. 主 催：核燃料サイクル開発機構（JNC）
4. 後 援：科学技術庁（予定）、原子力委員会（予定）
5. 形 式：特別講演と 3 つのセッションでのパネル討論等（国内外から約 15 名を招聘予定）、公開、日/英同時通訳付
6. 内 容：別添プログラム参照

'99 JNC 原子力平和利用国際フォーラム
 ー核燃料サイクルと核不拡散技術ー
プログラム

日時：1999年2月22日（月）、23日（火） 場所：東京、新霞ヶ関ビル（有明ホール） 主催：核燃料サイクル開発機構 後援：科学技術庁（予定）、原子力委員会（予定）			
日程	テーマ等	講演テーマ等	講演者及びパネリスト等
2/22（月） 13:00～13:10	JNC代表挨拶		JNC代表
13:10～14:10	特別講演	原子力に未来はあるか ー平和利用の推進と国際協力ー	原子力委員会委員長代理：藤家洋一
14:10～14:30	セッションⅠ： 「先進的な原子力平和利用技術と核不拡散」		座長：松本史朗（埼玉大学工学部教授）
		①「先進リサイクルシステムの概念」	若林利男 （JNC経営企画本部事業計画部研究主席）
		②「整合性ある原子力システムの核燃料サイクル概念」	鈴木聖夫
14:30～14:50			
14:50～15:20		③「アクチニドリサイクル技術開発の現状」	仏：カダラッシュ研究所
コーヒーブレイク（15:20～15:40）			
15:40～16:10		④「クローズドサイクルシステムの概念」	オルロフ副所長（露ロケット研究所）
16:10～16:40		⑤「新型炉システムの開発」	米：エネルギー省
16:40～17:40		⑥パネル討論及び座長総括	座長及び上記①、②、③、④、⑤の講演者によるパネル討論を行う。
2/23（火） 9:30～9:50	デモンストレーション	常陽におけるリモートモニタリングの実績	
9:50～10:35	セッションⅡ： 「リモートモニタリングによる透明性向上」		座長：谷 弘（原研理事）
		①「リモートモニタリング技術開発の現状」	ジョン・マター （米サウスイースト国立研究所遠隔監視システム部）
コーヒーブレイク（10:35～10:55）			
10:55～11:40		②「常陽におけるリモートモニタリング技術」	橋本裕（JNC大洗工学センター）
11:40～12:15		③「透明性向上の方向性としてのリモートモニタリング」	リチャード・フーバー （前 IAEA 保障措置局概念計画部長）
12:15～12:30		④座長総括	
昼食休息（12:30～14:00）			
14:00～14:50	セッションⅢ 「余剰核兵器解体 Pu の処分に係る国際協力と技術的課題」		座長：鈴木寛之（東京大学工学系研究科教授）
		①基調講演「解体 Pu 処分に係る国際動向（仮）」	米
コーヒーブレイク（14:50～15:10）			
15:10～17:00		②「解体 Pu 処分に係る日本及び JNC の取り組み」	科学技術庁 大和愛司（JNC理事）
		③パネル討論及び座長総括 「高速炉を利用した処分計画について」	上記のパネリストに加え バレンティン・イワノフ（露原子力省第一次官） 米：エネルギー省
17:00～17:10	閉会の辞		司会者

（プログラムは都合により変更することがあります。）